

# 言語文化「ナイン」

3時間扱い

## 単元の目標

- ◎作品における対比から、自分なりの作品解釈ができる
- 様々な登場人物から、キーパーソンを見つけられる

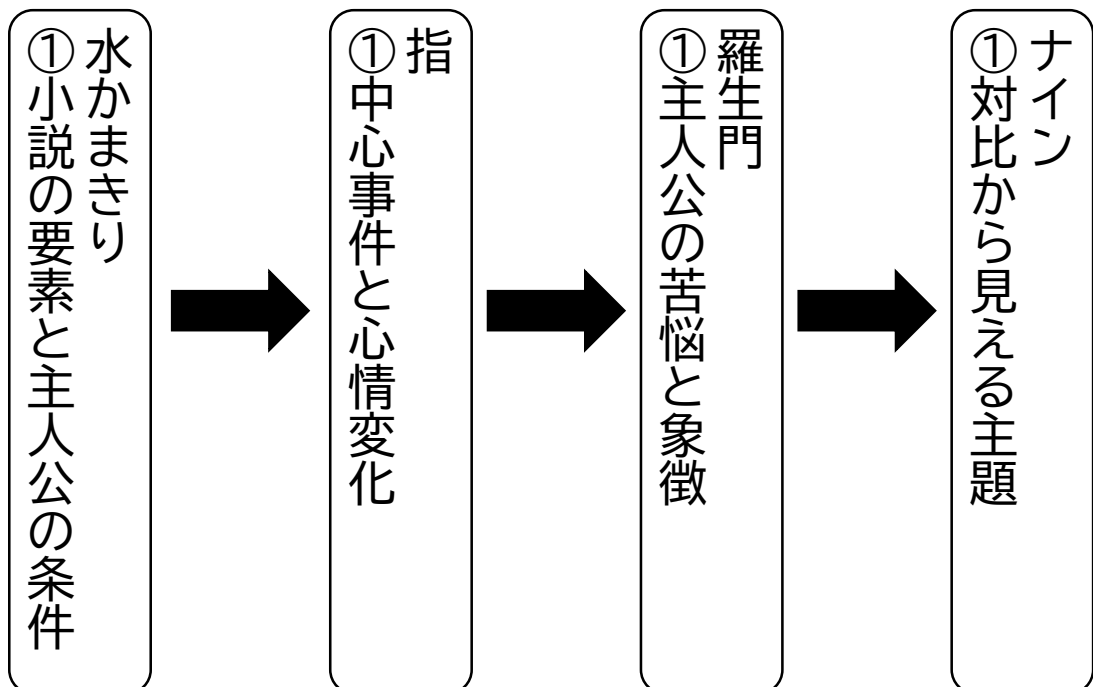
## 評価規準

|          |  |
|----------|--|
| 知識・技能    | 地の文や会話文などで登場する、自分には馴染みのない表現などの理解を深め、そこにこめられた心情を読み取り語感を育てること。 |
| 思考・判断・表現 | 表現作品の対比をつかむという視点から内容を解釈すること。                                 |

## 単元の流れ

| 次 | 時 | 主な学習活動                      |
|---|---|-----------------------------|
| 一 | 1 | 範読を聴き、初読の感想を書く。             |
|   | 2 | 物語における対比に着目し、意見を共有する。       |
|   | 3 | 対比の中から一つを選び、自分なりのナイン論を作成する。 |

## ここまでのロードマップ



## 授業づくりのポイント

### 単元で育てたい資質能力

本単元のねらいは、作品における対比構造に注目し、その対比構造から作者が作品を通して伝えたかったテーマをとらえること、また、読者である学習者本人が、本作品をどう読み味わったかをとらえることをねらいとしている。これまで学習してきた小説などと異なり、本作品をどう読み解くかが、学習者それぞれによって異なることをねらいとする点に留意されたい。そしてその異なる読み取りを共有することによって別の視点にも気づける、豊かな読みを実現していきたい。

#### 具体例

本作は「新道商店街の昔と今」「新道少年野球団の昔と今」「大濠公園野球場の西日の有無」など、作品内に多くの対比表現が散りばめられている。また、明らかに描かれていないものの、「新道少年野球団と大人たち」という対比がある。この対比がこのナインという小説を奥深くしている要素である。

### 教材・素材の特徴

「ナイン」は新道通りという町を舞台に、「わたし」という語り手(視点人物)、「中村さん」という狂言回し、そして「英夫くん」という価値観を揺るがす存在、「正太郎くん」という現れない主人公など、多くのキーパーソンが登場する。そして中盤までは中村さんの語りによってしかこの小説の世界は語られない。中村さんの語りによって読者が正太郎に対する不信や中村さんへの親密などが生じたところで、英夫くんの登場、そして独白によって物語の形が大きく変わる、非常に魅力的な小説である。

#### 具体例

「語り手＝主人公」という図式は、「水かまきり」同様、本作でも成立しない。さらに本作の主人公は誰なのか、という問いを設定すると、途端に悩ましい問題になる。特に主人公という定義をもとに授業を展開していた自分としては、このナインは、文章表現は易しめではあるが、1年生で学習するには少し異例の作品であるように思う。

### 言語活動の工夫

単元目標でも述べたが、今回の作品は学習者による読み味わいを共有することがねらいである。それはただ単にそれぞれが何となくの感想を言い合うのではなく、対比という要素に注目したうえで、自らの読み取り、自らのナイン論を持ち合わせて協議するというところに大きな目的がある。

発展的なことを考えれば、この作品のその後、正太郎と英夫の二人だけを登場人物にして、創作をさせてみるのも面白いかもしれない。正太郎と英夫がそれぞれどんな思いで年月を過ごし、今どのような思いに至っているのか。英夫の正太郎への感情はどのようなものなのか、といった視点は興味深い。

## ナイン(2/3)

### 本時の目標

- ①作品中に描かれている対比表現を見つけ出す
- ②見つけ出した対比表現に対して解釈を行う

### 授業の流れ

# 1

## 前時の初読の感想を共有する。

T : 前は共感を持った人物と反感を持った人物、そして印象に残った表現についての初読の感想を書いてもらいましたね。

ここで提出された感想文をいくつか取り上げる。  
感想文を書いた生徒とやりとりをする。

T : S1さんは英夫さんに共感を覚えたんですね？

S1: なんか、いいやつって感じがして。正太郎のことも訴えなかったし。

T : S1さんが英夫くんなら、どうしますか？

S1: いやあ、どうだろう？ 訴える、かなあ？ わからないです。

T : S2さんは中村さんに共感を覚えてますね？

S2: はい。新道少年野球団のことを愛してるって感じで。いい人ですね。

T : ところがS3さんは中村さんに反感を覚えているんですね。

S3: んー、反感っていうか。なんか、引きずってるなあっていう。

T : 引きずってる？

S3: 新道少年野球団って十何年も前のことですよ？ さすがに言いすぎ。

T : ふーん。それぐらい中村さんにとっては大事な思い出なんだろうねえ。

T : S4さんは英夫さんと常雄さんに反感を持っていますね。

S4: あー、まあ、なんか、正太郎に洗脳されてるの？って思ったから。

T : 洗脳。

S4: 騙されたのに感謝してるって、やばくない？

T : なるほど。S5さん、いかがですか？

S5: んー。自分はいいい話だなあって思ったけど…。

ここでS2とS3の印象を対立させたのはしらじらしい仕掛けであった。  
このあとの対比を見つけ出す活動の中で、ほかの生徒が  
新道少年野球団とほかの人(中村さんや「わたし」)を着眼した。

T : どうも読む人によって、このナインという小説の感想は違ってきますね。  
でもこれ、当たり前な話で。着目しているところはたぶん同じなんですよ。  
だけど、読む人の経験によって見え方が違うんですね。

T : それじゃあ今日は、作品内の対比を見ていきましょう。

2

作品における対比を探し出す。

感想を共有して、物語に対する興味を引き戻したところで作品における対比を探し出す活動となる。

対比は表現においてももちろん現れているが、表現されていない、見えない対比もある。活動の事前説明では、今まで学習してきた小説や、対比を重視した評論など過去に学習した教材群を利用して説明をすることで生徒の中で **学びの一貫性** が現れてくる。

以下、生徒が見つけた対比を示す。

- ①昔の新道通り 対 今の新道通り
- ②昔の新道少年野球団 対 今の新道少年野球団
- ③昔の正太郎 対 今の正太郎
- ④昔の大濠公園野球場 対 今の大濠公園野球場
- ⑤新道少年野球団 対 ほかの人(中村さんや「わたし」)

②は「中村さんの語りによって作り出された対比」である。

④は「西日の有無、象徴的な対比」である。

⑤は作品における「**見えない対比**」となる。

教師側からすれば、これらの対比は一つのテーマに収束していくのだろうが本単元の目標は、生徒が一つの対比に着目して解釈を推し進めていく活動によって達成されるものであるから、**教師側の収束は望ましくない**。

3

活動プリント(ロイロノートを使用)

